

平成24年度事業報告書

■特定非営利活動法人 KAWASAKI アーツ

1. KAWASAKI しんゆり映画祭

- (1) 今年度のテーマは、「映画よどこへ——」。近年急速に進む映画館のデジタル化は2013年には完了すると言われており、私たちが鑑賞できる作品に影響を与えている。一方、映画の制作現場では表現の可能性を豊かにするデジタル技術の導入も積極的に進んでいる。100年を超える映画の歴史の中でも大きな変化の年となる今年の映画祭では、今までの映画史を振り返りつつ今を見据え、私たちのベースであるしんゆりから、市民の視線でわたしたちの未来を探っていくようなコンセプトでプログラムを組んだ。
- (2) テーマに沿って、名作と言われる旧作品はフィルムでの上映にこだわり、ドラマからドキュメントまで、100年を超える映画史を迎えるものにした。それに対し、新作上映では旬の監督や俳優を迎え、スタッフ手作りの美術で“しんゆり映画祭らしさ”を打ち出しもりあげた。特に昨年が目玉企画、紫綬褒章を受章された俳優役所広司さんが来場したオープニングイベントは大入り満員の大盛況であった。
- また、川崎市アートセンター前では、今年も「青空市場」を実施。映画にまつわる物産の販売など映画と市場を連動した企画を行った。区民まつりにブースを出展し、映画と地域の連携企画も積極的に行い、“フェスティバル”としての華やかさを演出した。
- ワーナー・マイカル・シネマズ新百合ヶ丘と川崎市アートセンター・アルテリオ映像館、アルテリオ小劇場の3会場をメイン会場として開催の5年目となったが、動員数は2824名、秋の本祭での上映作品数は28作品(本祭のみ)、1プログラムあたりの平均集客数は67名、1プログラムあたりの集客率は、この5年間では最高となった。
- (3) 世界の多様な秀作を上映すると共に、ゲストを積極的に招待し、映画と舞台の同時上演などを実施することで、映画が持つ多様な価値を市民に提供することができた。
- (4) 単にイベントとしての映画祭実施ではなく、バリアフリー上映やジュニア映画制作ワークショップへの参加などを通して、映画への理解と映画の上映活動や映画を通じたまちづくり活動に取り組む人材を育成することができた。



主催:NPO 法人 KAWASAKI アーツ

共催:川崎市、川崎市アートセンター(川崎市文化財団グループ)、川崎市教育委員会、日本映画学校、
日本映画大学、昭和音楽大学、一般財団法人 川崎新都心街づくり財団、

後援:「映像のまち・かわさき」推進フォーラム、麻生区文化協会、公益財団法人 川崎市生涯学習財団、
「しんゆり・芸術のまちづくり」フォーラム

2. 5時からシネマ(映画上映による街の活性化事業)

KAWASAKI しんゆり映画祭で培った上映経験をもとに、映画祭以外の時期に市民のチカラで映画を上映する事業。市民交流を図り、街の活性化に貢献することを目的に、かわさき市民活動センターの助成を受けて実施した。

<実施内容>

■第3回 若松孝二 初期傑作選

日程 2013年2月9日(土)～15日(金)

会場 川崎市アートセンター アルテリオ映像館

料金 ◇1000円(一般/シニア) ◇800円(会員/大学生/障害者) ◇1600円(2回券)

作品 『犯された白衣』『処女ゲバゲバ』『性賊 セックスジャック いろはにほへと』

イベント① ゲストトーク&交流会

2月9日(土)

ゲスト 足立正生さん(映画監督)、小水一男さん(映画監督)

参加者 ゲスト、観客、運営スタッフ

入場者数 167名

チケット収入 142,600円

昨年急逝された若松孝二監督の初期の作品を選びすぐって上映。激動の昭和の政治や社会、人間を鋭く斬る若松監督の初期の作品群は、国際的にも高く評価され、多くの映画作家たちに影響を与えている。今回は若松作品に脚本や俳優で参加されている足立正生さんと小水一男さんにゲストに来ていただき、撮影秘話や若松監督の人柄や生き様、60年代から70年代の話などを語っていただいた。

■第4回 ありがとう日本映画学校

日程 2013年3月9日(土)～15日(金)

会場 川崎市アートセンター アルテリオ映像館

料金 ◇1200 円(一般/シニア) ◇1000 円(会員/大学生/障害者) ◇800 円(高校生以下)
作品 『桐島部活やめるってよ』『希望の国』『拝啓人間様』『どん底の二歩くらい手前』

イベント① ゲストトーク&市民交流会

3月9日(土)

ゲスト 吉田大八監督、藤井勇さん(照明)

参加者 ゲスト、観客、運営スタッフ

イベント② ゲストトーク&市民交流会

3月10日(日)

ゲスト 御木茂則さん(撮影)、松塚隆史さん(美術)、

鈴木剛さん(ラインプロデューサー)

参加者 ゲスト、観客、運営スタッフ

イベント③ ゲストトーク

3月13日(水)

ゲスト 西原裕貴さん(助監督)

イベント④ ゲストトーク

3月4日(木)

ゲスト 松林要樹監督

スペシャルゲスト 佐藤忠男さん(映画評論家・日本映画大学学長)

イベント⑤ ゲストトーク

3月15日(金)

ゲスト 藤村享平監督、佐藤忠男さん(映画評論家・日本映画大学学長)

スペシャルゲスト 佐藤忠男さん(映画評論家・日本映画大学学長)

入場者数 402名

チケット収入 350,400円

今回は、この春に大学開学に伴い閉校となる「日本映画学校」にスポットを当てた。
日本映画学校が新百合ヶ丘にやってきて28年、「日本映画の現場に日本映画学校の卒業生あり」と言われる豊富な人材の宝庫です。最近作で学校出身者の活躍を辿るとともに、新進気鋭の出身監督の卒業制作をあわせて上映した。

昨年度の反省を活かし、映画祭と並行して長期スパンで計画・準備を進めた為、交流会やフリー

ペーパーの内容を充実したものにでき、来場者からも好評をいただいた。

また、若松監督特集では九州など遠方からわざわざ足を運んで来てくださったお客様もいた。

さらにありがとう日本映画学校特集での上映作品『桐島、部活やめるってよ』が、奇しくもイベント初日前日の日本アカデミー賞受賞式で、最優秀作品賞を受賞。その効果もあり、同時に最優秀監督賞を受賞した吉田監督をゲストに呼んでいたため、イベント初日は早々に満席となり、その後もイベント終了時まで6～8割の集客が得られた。

また、日本映画大学の現役学生も多数、上映・ゲストーク・交流会に参加してもらえ、卒業生や新たな若い世代同士、地域住民や他世代の映画ファン、イベントスタッフと、いくつもの交流が重なり混じり合い一層地域や広い世代との交流が深められた。

主催：NPO 法人 KAWASAKI アーツ

後援：「しんゆり・芸術のまちづくり」フォーラム

協力：川崎市アートセンター/平成24年度かわさき市民公益活動助成金事業/若松プロダクション/

日本映画学校/日本映画大学

3. バリアフリーシアター制作

1997年より活動している「バリアフリーシアター制作」は16年目を迎えた。

昨年度課題として挙げ、一定の改善が見られた「(1) 話題性のある作品の上映」「(2) 広報対象の拡大」「(3) バリアフリー日本語字幕制作の充実」については、今年も更に前進できた。

(1) 話題性のある作品の上映

昨年度、映画祭で上映した『わが母の記』と、映画祭にゆかりのある押田監督がしんゆり周辺をロケ地に使った作品『39 窃盗団』は、イヤホンガイド利用者が多く、鑑賞後の感想もわかりやすいガイドだったと好評だった。

(2) 広報対象の拡大

映画祭で広報宣伝を依頼している合同会社東風の協力もあり、日本聴覚新聞などに上映情報が掲載された他、CS放送『目で聴くテレビ』、川崎市聴覚障害者情報文化センターにチラシを設置していただくなど、更に広報媒体の拡大にの実現が図れた。

(3) バリアフリー日本語字幕制作の充実

バリアフリー日本語字幕制作は、本数は多くないものの、『相馬看花』では強い福島弁を文字に起こす等、非常に難解な作業に意欲的に取り組んだ。

バリアフリー日本語字幕制作は、年々高まるニーズに応えるため、字幕作成ソフトを購入し、講

座開設をして制作者の育成を行い、さらに利用者を伸ばしたいところであるが、昨年度は助成金の交付が得られなかった為、引き続き今後の課題とする。

(4)利用者ニーズの更なる把握と、拡大

視覚障がい者に比べて、聴覚障がい者は外見からは判断しにくい為、実際の動員数にどのくらい日本語字幕利用者がいるのか、把握が難しい部分はあるが、昨年の映画祭のバリアフリー上映時に、聴覚障がい者の利用者を確認できなかった。

ニーズの年齢や活動範囲、求められる作品やサービスを今一度検証し直し、需要のあるところへきちんと求められるものを届けるということをするため、広報をおこなっている機関を始めとした各所と連携をとって、活動の充実につなげていきたい。

【本年度の制作した作品】

■川崎市アートセンターからの委託制作

『少年と自転車』 副音声ガイド/日本語吹替え

『39 窃盗団』 副音声ガイド/日本語字幕制作

『拝啓、愛しています』 副音声ガイド/日本語吹替え

■KAWASAKI しんゆり映画祭・制作・上映

『わが母の記』 副音声ガイド制作

『相馬看花 第一部 奪われた土地の記憶』日本語字幕制作

『Voy!～ある選手たちの戦い～』副音声ガイド上映

4.無声映画の活弁上映

今年度も KAWASAKI しんゆり映画祭のプログラム枠内で上映を行った。

今回は、映画史をたどるプログラムの“映画の草創期”作品として、世界最古の SF 映画「月世界旅行」(1902 年)と、イタリアを代表する無声映画「アントニーとクレオパトラ」(1913 年)を二本立てで上映。百年以上前に制作された大変古い作品だが、「月世界旅行」は今年話題を呼んだ 3D 映画「ヒューゴの不思議な発明」のモデルとして登場するジョルジュ・メリエスが監督した作品だけに注目度が高く、澤登さんの名調子と新垣隆さんの絶妙のピアノ演奏により、メリハリに富んだ鑑賞会ができた。尚、上映後は、映画祭プログラムディレクター白鳥あかねと澤登さんによる恒例のトークショーも行い、作品の時代背景などについても理解を深める機会となった。

・平成 24 年 10 月 7 日 川崎市アートセンターアルテリオ小劇場にて

『月世界旅行』『アントニーとクレオパトラ』 弁士:澤戸 翠 ピアノ演奏:新垣 隆

5.劇団「わが町」試演会 企画・制作

2012年6月にオーディションを行い、2013年3月に試演会に漕ぎつけた、市民による市民の為の劇団。地域住民4歳から74歳まで総勢約50名の劇団員で構成される新しいゆるやかな劇団。

2012年4月より「しんゆりシアター」と名付けられた、川崎市アートセンターアルテリオ小劇場が主催の公演の一翼を担う。川崎市新百合ヶ丘地域の創造発信の拠点となる地域劇場「リージョナルシアター」を目指す「しんゆりシアター」のラインナップのひとつとして、長期的に様々な創造活動を行う予定。

公演第一回目の公演は、1938年にアメリカで発表されたソートン・ワイルダーの戯曲「わが町」の世界と、「私たちのわが町・しんゆり」を自由に行き来する作品に仕上げられた。

翻案・作・構成・演出はふじたあさや。

3月の試演会を経て、6月にバージョンアップした舞台で本公演を行う。

この劇団公演の、企画・制作を協力し、地域の創造活動の発足と発信に貢献した。

6.あさお福祉まつり

川崎市麻生区社会福祉協議会主催の「第23回あさお福祉まつり(平成24年11月18日 麻生市民館大ホールにて開催)」における映画『ドラえもん のび太と奇跡の島』の上映コーディネーター等で協力した。

7.『父をめぐる旅-異才の日本画家・中村正義』映画制作会員窓口

川崎市多摩区に居を構え、1977年に亡くなるまでの生涯を「真の創造」に費やした孤高の画家・中村正義。その足跡を訪ねる長女・倫子さんを通して画家の実相に迫るドキュメンタリー映画『父をめぐる旅』は、個人や団体から寄せられる会費によって製作される。川崎ゆかりの画家・中村正義を描くこの作品の会費窓口業務を行うことで、地域の文化発信に貢献した。

本作品は2012年5月に完成し、上映活動に移っていく。そのため、5月末日にて会員募集は終了となった。

活動計算書

24年4月1日から25年3月31日まで

特定非営利活動法人 KAWASAKIアーツ

(単位:円)

科目	金額	
I 経常収益		
1. 受取会費		
会員受取会費	269,760	269,760
2. 受取寄附金・協賛金		
受取寄附金	335,000	
受取協賛金	200,000	535,000
3. 受取助成金・委託金等		
川崎市負担金	8,050,000	
日本芸術文化振興助成金	1,300,000	
麻生区委託金	900,000	
川崎市文化活動基金	1,000,000	
その他助成金・委託金	819,500	12,069,500
4. 事業収益		
①芸術文化をとおしたまちづくり事業(映画祭事業)		3,338,298
チケット販売収入	2,398,794	
広告収入	700,000	
物販収入	120,504	
ジュニア参加費	119,000	
②文化芸術振興に関する収入		2,186,966
5時からシネマチケット販売収入	633,500	
バリアフリー委託費(文化財団)	1,553,466	
映画製作費収入		
その他業務委託収入		
5. その他収益		
受取利息	1,120	
雑収益	36,852	37,972
経常収益計		18,437,496
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	3,925,112	
法定福利費	0	
退職給付費用	0	
福利厚生費	547,257	
謝礼	1,672,681	
人件費計	6,145,050	
(2) その他経費		
フィルム仕入	2,956,051	
広告宣伝費	1,494,459	
リース料	220,284	
地代家賃	1,791,433	
事務用消耗品費	373,347	
旅費交通費	879,879	
交際費	111,907	
その他経費等	862,676	
その他経費計	8,690,036	
事業費計		14,835,086

2. 管理費			
(1) 人件費			
役員報酬	0		
給料手当	0		
法定福利費	0		
退職給付費用	0		
福利厚生費	3,803		
謝礼	1,588,318		
人件費計	1,592,121		
(2) その他経費			
フィルム仕入	632,820		
広告宣伝費	15,000		
旅費交通費	272,242		
地代家賃	351,892		
その他経費等	244,977		
その他経費計	1,516,931		
管理費計		3,109,052	
経常費用計			17,944,138
当期経常増減額			493,358
III 経常外収益			
1. 固定資産売却益		0	
経常外収益計			0
IV 経常外費用			
1. 過年度損益修正損		0	
経常外費用計		0	0
税引前当期正味財産増減額			493,358
法人税、住民税及び事業税			102,624
当期正味財産増減額			390,734
前期繰越正味財産額			134,183
次期繰越正味財産額			524,917

※本年度はその他の事業は実施していません。

貸借対照表

25年3月31日現在

特定非営利活動法人 KAWASAKIアーツ

(単位:円)

科目	金額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	88,889		
預金	1,559,918		
未収入金	1,607,116		
流動資産合計		3,255,923	
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
車両運搬具	0		
什器備品	0		
その他有形固定資産	0		
有形固定資産計	0		
(2) 無形固定資産			
ソフトウェア	0		
	0		
無形固定資産計	0		
(3) 投資その他の資産			
敷金	0		
	0		
	0		
投資その他の資産計	0		
固定資産合計		0	
資産合計			3,255,923
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	155,295		
短期借入金	2,186,440		
未払費用	143,793		
未払法人税等	102,400		
預り金	143,078		
流動負債合計		2,731,006	
2. 固定負債			
長期借入金	0		
退職給付引当金	0		
固定負債合計		0	
負債合計			2,731,006
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		134,183	
当期正味財産増減額		390,734	
正味財産合計			524,917
負債及び正味財産合計			3,255,923

計算書類の注記

1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準(2011年11月20日 NPO法人会計基準協議会)によっています。

- (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法
最終仕入原価法を採用しています。
- (2) 固定資産の減価償却の方法
定率法を採用しています。
- (3) 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

2. 会計方針の変更

会計方針の変更はありません。

3. 事業別損益の状況

別紙参照

(単位:円)

4 借入金の増減内訳

(単位:円)

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
短期借入金	2,486,440	0	300,000	2,186,440
合計	2,486,440	0	300,000	2,186,440

5. その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項

財産目録

25年3月31日現在

特定非営利活動法人 KAWASAKIアーツ

(単位:円)

科目	金額	
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金	88,889	
預金	1,559,918	
未収入金	1,607,116	
流動資産合計		3,255,923
2. 固定資産		
(1) 有形固定資産		
車両運搬具	0	
什器備品	0	
その他有形固定資産	0	
有形固定資産計	0	
(2) 無形固定資産		
ソフトウェア	0	
	0	
無形固定資産計	0	
(3) 投資その他の資産		
敷金	0	
投資その他の資産計	0	
固定資産合計		0
資産合計		3,255,923
II 負債の部		
1. 流動負債		
未払金	155,295	
短期借入金	2,186,440	
未払費用	143,793	
未払法人税等	102,400	
預り金	143,078	
流動負債合計		2,731,006
2. 固定負債		
長期借入金	0	
退職給付引当金	0	
固定負債合計		0
負債合計		2,731,006
正味財産		524,917